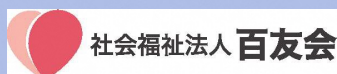


開設3年目の気づき ～ケアの質の向上・統一を目指して～



地域密着型特別養護老人ホーム フレンドピーチ ちはや

1

ノーリフティングケア 取り組み前の状況

(課題)

開設3年目・・・職員の入れ替わり、介護技術のレベルの違い など

統一したケアが出来て
いない状況!!

- ・入居者の安全面
- ・質の良いケアサービス
- ・福祉用具の活用
- ・職員の腰痛予防 等

誰がいつサービスに入っても同じ
ケアが提供できる仕組みを目指す!

2

ノーリフティングケア 参加の理由

- ・ノーリフティングケアを導入 ➡ 職員の介護技術の向上
- ・福祉用具を適切に使用する ➡ ケアの質の向上
- ・ケア内容の統一 ➡ 入居者の安心・安全の確保
- ➡ 業務手順の見直し
- ・リスクマネジメントを学ぶ ➡ 事故防止
- ➡ ヒヤリハットを検討

3

ノーリフティングケアの体制整備

計画 ・ 実行	問題点 ・ 難しかった点
委員会の設置	・ 人員配置上の問題から参加者が揃いにくい状況 ・ 思うように委員会活動が進まなかった
取り組むことを職員に周知する	・ 取り組んで半年がたち、実際に実技研修や委員会活動を通じてようやく浸透してきた
委員会活動の実施	・ 事故防止委員会と同時開催 とし、委員会の効率化を図り、ノーリフティングケアに取り組むことにした
技術教育	・ 毎月の職員研修にノーリフティングの実技研修を組み込み、一度にできるだけ多くの職員に教育できるようにした

4

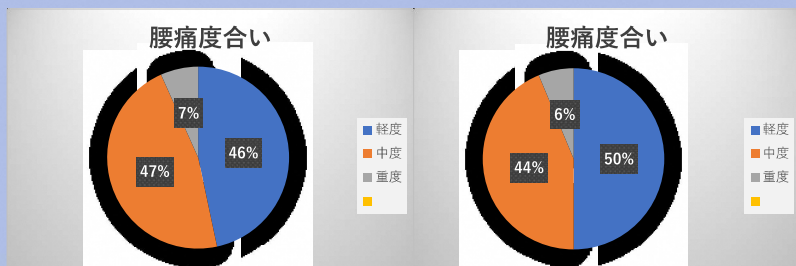
健康管理

10月からの腰痛予防対策として

- ・スタッフとの面談（中度、重度のスタッフ1回/月、軽度1回/3か月）
- ・フロア内に『これだけ体操』の提示、業務前の体操の実施

R3 10月（対象者16名）

R4 1月（対象者17名）



腰痛度合いに悪化は見られなかった

5

プランニング

アセスメント

LIFEの
生活機能チェック
シートを活用

プランニングにアセスメントを生かすという認識を介護職員に周知することが難しかった

ケアプラン

24時間
シートの
活用

ケアプランを軸として24時間シートを作成し、介護職員もアセスメントを意識した個別ケア性を高めるようにした

6

教育体制

取り組み前

教育体制 ×

外部研修は報告書のみ

伝達講習 ×

施設内研修（月2回）

現在

施設内研修の活用



中・長期計画として
ノーリフティングケア
の理解
技術習得、定着

福祉用具

取り組み前

種類・数の
把握、点検 ×

導入計画立案 ×

現在

福祉用具管理表作成

月1回点検、メンテナンス

補助金の情報収集
導入計画
(介助式車椅子、リフト)

福祉用具点検表

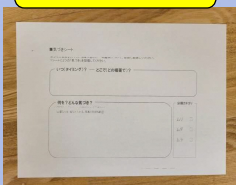


ボード作成

8

リスクマネジメント

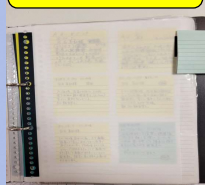
気づきシート



業務改善を目指し「気づきシート」を導入をしたが、時間の経過とともに、書かれる枚数が減っていった



小さなヒヤリ



ヒヤリハットを気軽に書ける方法を模索し、付箋に書いて貼るだけの小さなヒヤリノートを作成



ノーリフティング委員会
事故防止委員会

気づきやヒヤリを検証し、対応策を考える体制を構築

- ・環境面のチェックラウンド

9

取り組み後の変化

今までのケアには戻りたくない

自分自身も入居者様にもとても安楽なことが分かった

他のスタッフにもきちんと伝えていきたい

- ・「開設3年目の気づき」として1年間の取り組みを検討した
- ・体制の未構築さを再認識した
- ・「ケアの質の向上・統一」を目指し、特に教育体制の確立を図っていく

10

今後に向けての目標

委員会活動の定着

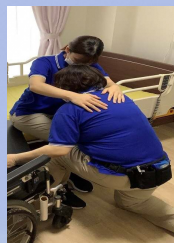
ノーリフティング委員会の活動内容を充実させ、普及促進を図る

技術研修を充実

定期的な研修を通じて、職員の介護技術の向上を目指し、ノーリフティングケアへの理解をさらに深める

福祉用具の有効的な活用

福祉用具の必要性を正しく理解し、有効的に活用していく



11

ご清聴ありがとうございました

12